The International WWII Museum Association

Address: No. 101, Neijie of Wanping Fortress, Lugou Bridge, Fengtai District, Beijing, China
Postcode: 100165
Tel: +86(010)883895250
Fax: +86(010)83896220
Mail: jinianguanzwh@1937china.com

Международная ассоциация музеев Второй мировой войны

Адрес: 101, Внутренняя улица Крепости Ваньпин, мост Лугоуцяо, район Фэнтай, Пекин, Китай
Почтовый индекс: 100165
Тел.:+86(010)83895250
Факс: +86(010)83896220
Почта: jinianguanzwh@1937china.com

国际二战博物馆协会

地址：中国北京市丰台区卢沟桥宛平城内街101号
邮编：100165
电话：+86(010)83895250
传真：+86(010)83896220
邮箱：jinianguanzwh@1937china.com

Host Units: International WW II Museum Association, Museum of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression, Beijing Peace Education Foundation

Организаторы: Международная ассоциация музеев Второй мировой войны, Мемориальный музей антияпонской войны китайского народа, Пекинский фонд образования в интересах мира

主办：国际二战博物馆协会　中国人民抗日战争纪念馆　北京和平教育基金会

纪念中国全民族抗战爆发80周年
国际二战博物馆馆长论坛材料汇编

Compilation of the Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression

Подборка материалов Международного Форума директоров музеев Второй мировой войны, посвященного 80-летию с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа

中国 北京
Beijing China
Китай Пекин
2017.7.6-7.10

「対立の文化」から「共生の文化」へ

1998 年以来たびたび訪れている、中国人民抗日戦争紀念館で開催される「中国全民族抗戦勃発 80 周年紀念＆国際二戦博物館館長フォーラム」にご招待いただき、ありがとうございます。

世界は国家間のせめぎ合いと地域格差、情報・物流革命と地球温暖化による気候変動、核拡散等が複雑に絡まり、歴史的大変動期に突入していると思われます。このため、既存の枠組みが流動化、朝鮮半島、日本列島、沖縄諸島、台湾諸島、北方四島は、産業革命以降の地政学的背景から生まれた諸問題に、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の度々の核・ミサイル実験が重なり、抑制された究極の対立状態に陥っています。今こそ、我々の智恵と勇気が試されています。1895 年に来日された孫文先生の念いを現代によみがえらせ、朝鮮半島と日本列島から「対立の究極の文明から共生の文化」を生み出す好機と捉えることもできます。

1937 年 7 月 7 日の盧溝橋事件から 80 年、大きな災難を与えた加害国・敗戦国日本の子孫として中国人民に心からの謝罪と周恩来総理の未来を見据えた戦後の対応に深く感謝申し上げます。

人間自然科学研究所は、1997 年から世界の戦争・平和記念館を訪問、学習・献花・寄付を行うなどの活動を続け、紛争・戦争に至る背景と経緯と実態を研究、「戦前責任」「戦中責任」「戦後責任」の３つに分けて考察してきました。

今のままでは、日本、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、そして米国・露国・中国の３大核大国の指導者は勿論、国民一人ひとりが、人類史における究極の「戦前責任」を問われる立場になります。

周恩来総理の「前事を忘れず後事の師とす」、江沢民主席の「歴史を鑑とし未来を拓く」という言葉をよみがえらせ、長い時間軸で理想世界を実現するストーリーを描くべきときが来たと認識しています。

４万８千年前、アフリカを出た人類の祖先は、中国・朝鮮半島から九州、台湾から琉球列島、シベリアから北海道という３つのルートで日本列島に到達したと言われています。暖流に挟まれ南北に長い日本列島に到達した人々は、豊かな自然の恵みを享受する一方、地震津波・台風・噴火など自然大災害を受け、島国独特の文化が生まれ、その後諸外国の影響を受け現在に至っています。

人類は、火の利用、言葉の発明、分業により進歩。火は火薬、ダイナマイトを経て、究極の火・核に。言葉は文字、印刷術を経て、クラウドとスマートフォンに。また通信・人工知能の驚異的進化は止まるところを知りません。分業は、国際分業が機能しなければ、どの国も成り立たない時代になっています。

産業革命はユーラシア大陸西端の島国・イギリスから始まりました。「平和の事業化」、人類進化のための新しい文化は、大陸東端の島国・日本の、縁結びの地と言われる「八雲立つ出雲」で生まれました。これが中国北京に伝わり、「和の文化」研究会が 2016 年 1 月に発足しました。12 名の学識研究者と北京市朝陽区中小企業市場発展商会（会員数 200 社）で、定期的に会合が行われ、当社が編纂した「経営理念手帳」中国語版を人民東方出版伝媒から発行する準備が進められています。

日本は、1945 年 8 月 15 日のポツダム宣言受諾、無条件降伏をラジオで国民に知らせた昭和天皇の放送日を終戦記念日と定めています。人間自然科学研究所はこの「終戦」という言葉を「戦争の終焉の先がけを務める」と再定義。25 年の活動から生まれた構想、提言をこの度の式典を機に、北京から世界へ向けて発表させていただきます。

第一は、沖縄において、人間の才能が次々に開花し、人類の未来が拓けるきっかけを提供する施設として「国際平和センター」を創設、「世界恒久平和発祥の島」とする提案です。

1879 年、明治政府の琉球処分により日本に併合され、500 年続いた琉球王国が滅び、沖縄県になりました。これが、日本の植民地政策の始まりで、以後、台湾、朝鮮半島、満州、北方四島など、次々に領土を拡大してきました。

沖縄は「出会えば兄弟」という言葉があるように「平和の島」でしたが、太平洋戦争末期の沖縄戦では約 20 万人が犠牲となり、「被害の島」になりました。第 2 次世界大戦末期の日本本土爆撃、その後朝鮮半島、ベトナム、イラク等への米軍前線基地として「加害の島」という側面も持つようになりました。 このような沖縄の人類史的・地政学的な意味を研究する中から次の構想が生まれました。

① 世界中から近代の戦争の全戦没者電子データを受けとめ、永遠に記録、閲覧できる「メモリアルセンター」。
② 情報通信技術（ICT・IOT）で世界の戦争・平和博物館のネットワーク網を構築。各施設の資料と写真映像をリアリティをもって総合的に学ぶことができ、世界の戦争・平和博物館への案内役と新たな智を生み出す「世界戦争平和映像センター」。

これを 3 年後に返還が決定している那覇空港隣接地に建設する構想です。

長い人類の営みから北極海の氷が溶け、北極海航路が拓ける可能性が生まれています。このたび習近平総書記は「一帯一路」構想を提唱されました。沖縄とその近海、竹島（独島）・日本海に象徴される対立の地域から、「一帯一路」構想がさらに進化し、アジア・ヨーロッパ・アメリカ大陸が結ばれる「世界縁結び 平和の特別聖地」となる可能性が見えています。

朝鮮半島と日本列島は、国土が広く、物理的に先制核攻撃をしない事が宣言できる、米国・露国・中国の３大核大国の勢力が拮抗する結節点に位置します。大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と日本は、人権・歴史・領土問題などが複雑に絡まり抑制された対立が続いています。この対立こそ、核廃絶、世界恒久平和の入り口であると確信しています。

第二は、３大核大国と世界の国々の賛同を得て、朝鮮民主主義人民共和国の核放棄と世界すべての核保有国の核放棄を同時に実行、放棄された核兵器はすべて３大核大国に移管、朝鮮半島と日本列島の非核化を実現する。３大核大国は段階的に核削減し大国の人類史的な責任を果たす、という提言です。これを打ち出すことにより、三大核大国は大国としての国家の核心が生まれます。

第三の提案は、国民国連の樹立です。
2008 年、北京で開催された、学苑出版社の『グロー バル時代の人間学 中日韓英四カ国語による中国古典名言録』出版記念フォーラムで、「国民国連」の試案を発表しました。

現在の「国連」は「権力」である政府で構成され、第２次世界大戦の教訓から生まれた常任理事国 5 か国を中心に運営されています。一方、新しく構想した「国民国連」は、人類の特性と歴史的経緯を生かし、論理的討議を通じて、長い時間軸で道理を実現する道筋を生み出す、「国民代表」で構成され「権威」が生まれる集団です。その発祥の地を沖縄に置きます。
混迷する世界を輝かしい未来に導く「国民国連」の樹立が喫緊の課題です。

以上、３つの案を、国際二戦博物館館長会議で知っていただき、この構想提言が世界に広がり、議論が進み、国連の場で承認が得られる流れが生まれることを念じています。

一般財団法人 人間自然科学研究所　理事長
小松電機産業株式会社　代表取締役
小松昭夫

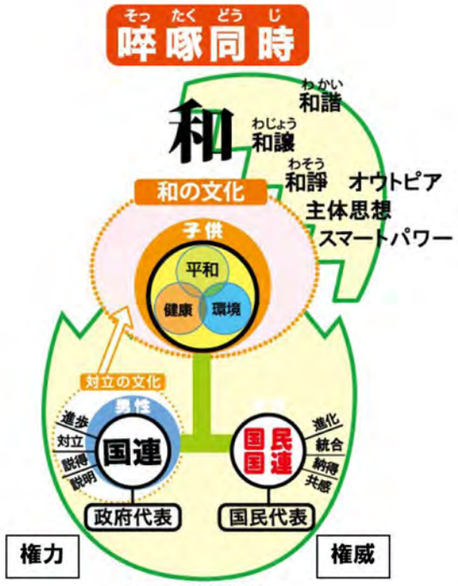
代読
磯江公博
（一般財団法人 人間自然科学研究所 監事
株式会社エナテクス常務取締役）

2017 年 7 月 21 日

一般財団法人 人間自然科学研究所　ロゴマーク

星印は、日韓で紛争中の日本海・東海の竹島・独島です。
日本列島は、水球（地球）最大の海・太平洋の各地の地震で起きる津波を、中国、ロシア、朝鮮半島の防波堤の役割ができる場所に位置します。また、４万８千年前、アフリカを出たホモサピエンスが、ユーラシア大陸のヒマラヤ山脈を南北に分かれて東に進み、アジアに到達、「中国・朝鮮半島」「台湾・琉球列島」「シベリア」の３つのルートを経て３万８千年前に、日本列島に到達したと言われています。
噴火・地震津波・台風・洪水など自然大災害を受容しつつ、暖流に囲まれ、南北に長く、水と温泉に恵まれ、針葉樹・落葉樹が生い茂る緑豊かな日本列島で自然の恵みを享受、また地球最大の多民族・ユーラシア大陸の政変で起きる「人類の大移動」が、朝鮮半島と日本海・東海によって食い止められ、日本列島独特の文化が生まれました。
漢字に代表される優れた文化を持つ漢民族は、大陸では同化と自立を繰り返し、世界に流出した人々は西欧文化を取り入れ拠点をつくり、華人ネットワークを形成、今新たな段階を迎えています。
またギリシャを源流とする西欧諸国は、15 世紀の大航海時代を経て、全世界に植民地を拡げました。
18 世紀になると、エジプト文明を受け継ぐ、ユーラシア大陸西端の島国・イギリスは、蒸気機関の発明による産業・社会革命を起こし、その波を世界にひろげ、植民地争奪戦に勝利しました。そして第 2 次世界大戦で世界最大の軍事・金融力と消費文化を持った、アメリカ合衆国を誕生させ、現代に至っています。日本は道を誤り、権威と権力を統合、明治維新を経て、米英独の文明を吸収し、
「富国強兵殖産興業」政策を進め、日清戦争、日露戦争、第２次世界大戦に至り、周辺諸国に想像を絶する災難を与え、戦後の東西冷戦とその終結を経て、今日に至っています。
朝鮮半島と日本列島は、アメリカ合衆国・ロシア・中華人民共和国の３大核大国の勢力が拮抗する結節点に位置しています。大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と日本は、人権・歴史・領土問題などで抑制された対立を続けています。
かつて「共存の海」であった日本海・東海を「対立の海」にし、今日に至っています。
朝鮮半島と日本は、３大核大国の積極的な賛同を得て、「対立の海」を「共生

の海」にし、「世界の対立から共生の文化」を生み出す先駆けを務める使命を果たすときが来たと認識しています。私たちの念いを、このロゴマークに表現し、2008 年に制定しました。事業においても、同じマークを使用しています。



国民国連構想
2008年9月、北京で発表

（2008 年制作）

国連＝1945 年 2 月のヤルタ会談で合意され、「権力」である政府で構成されており、第２次世界大戦の教訓から生まれた常任理事国 5 か国を中心に運営されている。

国民国連＝人類の特性と歴史的経緯を生かし、自由が保障された論理的な討議を通じて、長い時間軸で道理を実現する道筋を生み出す、「国民代表」で構成され、「権威」が生まれる集団。

纪念中国全民族抗战爆发80周年
国际二战博物馆馆长论坛

The Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression

Международный научный Форум директоров музеев Второй мировой войны, посвященного 80-летию начала всенародной войны народов Китая против японской агрессии

主办：国际二战博物馆协会　中国人民抗日战争纪念馆　北京和平教育基金会

中国 北京　2017年7月6日—10日

The poster of the Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression

Афиша Международного форума директоров музеев Второй мировой войны, посвященного 80-летию с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа

纪念中国全民族抗战爆发 80 周年国际二战博物馆馆长论坛宣传海报

Group photo of the delegates to the Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression

Групповой снимок участников Международного форума директоров музеев Второй мировой войны, посвященного 80-летию с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа

参加纪念中国全民族抗战爆发 80 周年国际二战博物馆馆长论坛的嘉宾合影

The materials of opening ceremony of the Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression

Curator of Museum of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression
Li Zongyuan

Li Zongyuan, Curator of Museum of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression is delivering speech.

Honorable Deputy Director-General Guan Qiang, Vice Chairman An Laishun, ladies and gentlemen, dear friends,

Good morning!

As the Curator of the Museum of the War of Chinese People's Resistance against Japanese Aggression, I have been entrusted by the General Assembly to host this opening ceremony. On behalf of the organizers, I would like to extend my sincerest welcome to all of you and express heartfelt thanks for your concern and support of the International WWII Museum Association as well as the Museum of the War of Chinese People's Resistance against Japanese Aggression.

On July 7th, 1937, the Japanese imperialists started an all-out war on China by launching the July 7th Incident (or Lugou Bridge Incident). The Incident marks the beginning of China's full-scale resistance to the Japanese invasion, as well as the opening of the Eastern Battleground of the World Anti-Fascist War. As this year marks the 80th anniversary of the outbreak of the War of Chinese People's Resistance against Japanese Aggression, the Chinese Government held a grand commemorative ceremony at the Museum of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression yesterday. To commemorate the 80th anniversary of the outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression, enhance the communication and study of WWII history, improve the cohesion among international WWII museums, and maintain world peace and development, we invite members of the International WWII Museum Association and other famous WWII museums to meet here in Beijing and jointly hold The Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression.

Since its founding on September 7th, 2015, the International WWII Museum Association has received strong support from Chinese government departments at all levels, including the Ministry of Culture, the Ministry of Civil Affairs, the Ministry of Foreign Affairs, and the State Administration of Cultural Heritage. By leveraging the platform provided by international organizations like the International WWII Museum Association and UNESCO, we have expanded our international influence and built a brand new international image. Going forward, we will continuously improve the management and development of the Secretariat and further enhance its functions in organization and communication, thus facilitating the development of the Association. Meanwhile, we will also be focusing on constructing the "Five Platforms"–academic, information, activity, data, and exchange. The Association will expand its presence, optimize its members, organize diversified activities, strengthen exchange and cooperation, and enhance the Secretariat's ability to serve its members. As the seat of the Secretariat, the Museum of the War of Chinese People's Resistance against Japanese Aggression will give its full support to the Association, cooperate with members in exhibition swaps, exchange visits and academic research, and further enhance exchange and cooperation. Let us work together to remember the history of WWII, draw lessons from history, cherish the hard-won peace, fight against aggressive wars, and make more contributions to the friendship of people around the world, as well as, world peace and development.

Isoe Kimihiro, Delegate of Director Komatsu Akio of Human Nature Science Institute Foundation is delivering speech.

Accepting the Potsdam Declaration, Emperor of Japan broadcasted the end of the war on August 15th of 1945. Then Japan designated the day as the End-of-the-War Day. We, the members of the Human, Nature & Science Institute Foundation want to re-designate the day as the "End–of-All-War Day." In other words, we would like to make the day as a forerunner of perpetual world peace. With this hope in mind, I would like to announce to the world from Beijing today our peace plan/suggestion which we have worked on for the past twenty-five years.

First, I would like to suggest to build a facility called "International Peace Center" in Okinawa. The center will help people cultivate their own abilities to the degree that they would open the future for mankind. Thus, Okinawa will be known as a "cradle for perpetual world peace."

In 1879 Okinawa was merged with Japan when the Meiji government forced "the Ryukyu sanction." The Kingdom of Ryukyu which lasted for 500 years came to an end and Okinawa Prefecture was born. This is the first example of Japan's colonialization policy. Since then, Japanese territory expanded as Japan colonized Taiwan, the Korean Peninsula, Manchuria, the Northern territories, etc.

"Everybody I meet is my brother (sister)." is a popular saying in Okinawa. It was an island of friendly people. However, "the island of peace" became "the island of victims" when some 200,000 people lost their lives toward the end of the WWII. To my greatest regret, it now has a face of an assaulter: War planes took off from Okinawa in order to attack Japan toward the very end of the WWII. Then military bases in Okinawa were used to attack the Korean Peninsula, Vietnam, Iraq, etc. Studying the meanings of Okinawa from the viewpoints of human history and geopolitics, I have worked out the following projects.

1. Building a "Memorial Center of War Victims" which collects the electronic data of all the war victims. The data will be preserved here forever and basically anyone has free access to them.

2. Building an "Image Center of World War/Peace Museums" which connects main war/peace museum of the world using the technology of ICT, IoT, etc. Visitors can virtually see all the collections of the chosen museum without actually visiting there. We expect the center would encourage people to produce new kind of wisdom after studying here at the center.

I would like to build it in the area next to the Naha International Airport. The area will be returned to Okinawa in three years of time. Because of the global warming as a result of centuries of human activities, ice has melted in the Arctic Ocean to the degree that Arctic passage might be opened before too long. Recently General Secretary Xi Jinping announced the "Belt and Road initiative." When you see the world map and carefully examine the present marine passage situations, you would easily be tempted to apply his initiative to other areas by a greater scale. Okinawa, Takeshima (Dokdo), the Sea of Japan (the East Sea), Asian, European and American continents should be more tightly connected with each other through old and new passages.

East Asia would then play the sacred role of "match-making for the world.

The Korean Peninsula and the Japanese Archipelago are located in the area where the three big nuclear powers, America, Russia and China, meet. The three big powers could declare that they would not be the first country to use nuclear bombs simply because their lands are big enough. The Republic of Korea, the Democratic People's Republic of Korea and Japan have old intermingled problems of human rights, historical issues, territorial problems. They have been the reasons for their oppositions for many years. The oppositions have been, however, barely under control. I believe that the oppositions could be the gateways to the nuclear abolishment and the perpetual world peace.

Secondly, I would like to suggest with the agreements of the three big nuclear powers the simultaneous abolition of all nuclear weapons of all nations except America, China and Russia. The abolished nuclear weapons will be placed under the joint control of the big three. The Korean Peninsula and the Japanese Archipelago thus become a nuclear-free zone. Then the responsibility of the three big nuclear powers in man's history is to abolish their nukes gradually and completely. By doing so, the three big powers would obtain the core reason of their being in this world.

Thirdly, I would like to propose the idea of establishing People's United Nations.

In 2008, I introduced a prototype idea of the above in Beijing on the occasion of the memorial forum to commemorate the publication of the book in four languages titled The Chinese Classical Quotations.

The United Nations we now have primarily consists of national governments which represents "the power" of the states. Learning from the lessons of WWII, it is run mainly by the five permanent members of the U.N. Security Council. Whereas "People's United Nations" consists of representatives of peoples and represents "man's authority." People's United Nations tries to pave the road of reasons along the long axis of time through logical discussions and by trying to make the best use of human traits and historic processes. The first headquarters shall be placed in Okinawa.

The establishment of People's United Nations is urgently needed in order to lead the present chaotic world into the bright future.

I tried to introduce the three proposals above to the assembly of this meeting, wishing that the day would come when the world would seriously discuss them and the United Nations would give its recognition and approval to the People's United Nations.

Выступления на церемонии открытия Международного форума директоров музеев Второй мировой войны, посвященного 80-летию с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа

Директор Мемориального музея антияпонской войны китайского народа
Ли Цзунъюань

Директор Мемориального музея антияпонской войны китайского народа Ли Цзунъюань ведет церемонию открытия форума

Уважаемый замруководитель Государственного управления по охране культурных памятников Гуань Цян, заместитель председателя Международной ассоциации музеев Ань Лайшунь, дамы и господа, друзья!

Добрый день!

Я – директор Мемориального музея антияпонской войны китайского народа Ли Цзунъюань. Имею честь вести церемонию открытия форума. Я хотел бы от лица организатора мероприятий искренне поблагодарить вас за то, что вы почтили нас своим присутствием! Позвольте искренне поблагодарить вас за заботу и поддержку, которую вы оказываете деятельности Международной ассоциации музеев Второй мировой войны и Мемориальному музею антияпонской войны китайского народа.

7 июля 1937 года японский империализм, инициировав инцидент 7 июля, также известный как инцидент на мосту Лугоуцяо, развернул всестороннюю войну вторжения в Китай. Инцидент 7 июля стал началом полномасштабной антияпонской войны китайского народа, так появился главный восточный фронт Мировой антифашистской войны. В этом году исполняется 80 лет с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа. Вчера китайское правительство в Мемориальном музее антияпонской войны китайского народа провело торжественную памятную церемонию. Чтобы почтить памятью 80-летие с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа, укрепить исследование и распространение истории Второй мировой войны, постепенно усилить сплоченность музеев Второй мировой войны, лучше защитить мир во всем мире и мирное развитие, мы пригласили друзей из организаций-членов Международной ассоциации музеев Второй мировой войны и других знаменитых музеев Второй мировой войны встретиться в Пекине, и совместно провести мероприятие «Международный форум директоров музеев Второй мировой войны, посвященный 80-летию с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа».

С тех пор, как Международная ассоциация музеев Второй мировой войны была основана 7 сентября 2015 года, она заручилась всяческой поддержкой со стороны Министерства культуры Китая, Министерства гражданской администрации, Министерства иностранных дел, Государственного комитета по охране культурного наследия и других правительственных органов. Мы, при помощи Международного совета музеев, Организации Объединенных Наций по вопросам образования, науки и культуры и других платформ международных организаций, повысили международную влияние, сформировали международный имидж. В будущем мы будем постоянно укреплять управление и строительство секретариата, постепенно расширять связующую и организующую роль секретариата, чтобы лучше удовлетворять потребности развития Ассоциации. В то же время, Ассоциация планирует, ориентируясь на основную рабочую цель по созданию пяти платформ – научной платформы, информационной платформы, платформы по организации мероприятий, платформы данных и платформы для обмена, постоянно расширять свои силы, улучшать ряды членов, организовывать особые мероприятия, укреплять обмен и сотрудничество, повышать способности секретариата Ассоциации в обслуживании членов. Мемориальный музей антияпонской войны китайского народа, будучи местом, где расположен секретариат Ассоциации, будет всеми силами поддерживать работу Ассоциации, обмениваться со всеми организациями-членами выставками и сотрудниками, проводить научные исследования, постепенно улучшать обмен и сотрудничество. Давайте же мы возьмемся за руки, будем крепко помнить историю Второй мировой войны, извлечем из нее важные уроки, будем ценить так непросто давшийся нам мир, твердо сопротивляться войнам и агрессии, делать необходимый вклад в рост дружбы между народами мира, защищать мир во всем мире и мирное развитие!

Представитель председателя правления Научно-исследовательского института природы и человечества Исое Кимихиро выступает с речью

Во-первых, советуем создать Центр мирового мира на Окинаве. Таким образом Окинава станут базой стабильного мирового мира. Этот Центр будет представлять людям возможность проявить свой талант и проложить будущий путь.

В 1879 г. правительство Мэйдзи получило право править Рюкю, и империя Рюкю, которая длилась 500 лет, пала. Рюкю присоединились к Японии, стали Окинавой. Это начало японской экспансии. Впоследствии Япония захватила Тайвань, корейский полуостров, Маньчжурию, четыре северных острова.

В прошлом Окинава были мирным островом, но к окончанию войны в сражении на Окинаве погибли примерно 200 тысяч человек. Окинава стали потерпевшими островами. Во время Второй мировой войны Окинава являлись японской военной базой, потом американской военной базой в других войнах, как война на корейском полуострове, в Вьетнаме, в Ираке и т.п.. Это и вредные острова. Зная историю Окинавы и геополитику, мы предлагаем:

(1) Собрать данные о погибших разных стран, создать Центр памяти, где можно постоянно записать материалы и читать их.

(2) С помощью интернет технологий (ICT/IOT) создать веб-сайт музеев войны и мира, где можно просмотреть материалы, фотографии и видео музеев. Таким образом мы можем узнать эту историю всесторонне. И этот веб-сайт будет вести направление развития музея и будет новым изобразительным центром разных музеев.

Мы собираемся создать этот центр возле Аэропорта Наха через 3 года.

Спустя десятки лет лёд Северного Ледовитого океана растает, и откроется маршрут через океан. Недавно председатель Си Цзиньпин представил концепт «Один пояс, один путь». Окинава и приморская акватория, Острова Лианкур станет священным местом между Азией, Европой и США, что будет выводить «пояс и путь» на высший уровень. Это вполне возможно.

Корейский полуостров и Японские острова оказались в фокусе трёх ядерных держав, которые располагают большой территорией и могут объявить о непринятии ядерного

удара. Республика Корея, Корейская Народно- Демократическая Республика и Япония находятся на сложном противоположном положении по вопросам прав человека, истории и территориального суверенитета. Мы уверены в том, что именно эта противоположность является выходом сокращения ядерных вооружений и сохранения прочного мира.

Во-вторых, при поддержке трёх ядерных держав мы просим Корейскую Народно-Демократическую Республику бросить ядерные вооружения, и заставляем другие страны отказаться от ядерных вооружений. Брошенные вооружения отдают трем ядерным державам, чтобы реализовать безъядернность на Корейском полуострове и Японских островах. Они по этапам сокращают ядерные вооружия, выполняя человечески-историческую обязанность. Это наше второе предложение.

Под нашим предложением три державы будут соединяться вместе.

В-третьих, создать Народную Организацию Объединенных Наций.

В 2008 г. В Пекине Издательство Сюеюань провело Семинар в честь издания «Сборник древних китайских крылатых фраз». На семинаре был объявлен проект «Народная Организация Объединенных Наций». Настоящая ООН состоит из властных государств, является наследием Второй мировой войны, под руководством пяти постоянных членов-стран. Новый проект «Народная Организация Объединенных Наций», учитывая исторические факты и человеческую природу, на основании разумного обсуждения осуществляет резолюции, состоит из народных представителей. Штаб будет находиться на Окинаве.

Создание Народной Организации Объединенных Наций, которая ведет в светлое будущее – актуальная задача.

Пользуясь этим случаем, мы надеемся, что эти три предложения могут распространяться во всем мире, и будут приняты в ООН.

Ru

纪念中国全民族抗战爆发 80 周年国际二战博物馆馆长论坛开幕式发言材料

中国人民抗日战争纪念馆馆长　李宗远

中国人民抗日战争纪念馆馆长李宗远主持开幕式

尊敬的关强副局长、安来顺副主席、女士们、先生们、朋友们：

大家上午好！

我是中国人民抗日战争纪念馆馆长李宗远，受大会的委托，主持此次活动开幕式。我谨代表主办单位对大家的到来表示诚挚的欢迎！对大家给予国际二战博物馆协会及中国人民抗日战争纪念馆各项工作的关心与支持表示衷心的感谢！

1937 年 7 月 7 日，日本帝国主义以制造七七事变（又称卢沟桥事变）为起点，发动了全面侵华战争。七七事变成为中国全民族抗战爆发的开端，由此开辟了世界反法西斯战争的东方主战场。今年是中国全民族抗战爆发 80 周年，昨天，中国政府在中国人民抗日战争纪念馆举行了隆重的纪念仪式。为纪念中国全民族抗日爆发 80 周年，加强二战历史传播与研究，进一步增强国际二战博物馆间的凝聚力，更好地维护世界和平与发展，我们特邀请国际二战博物馆协会会员单位和其他国际知名二战类博物馆的朋友们齐聚北京，共同举行“纪念中国全民族抗战爆发 80 周年国际二战博物馆馆长论坛”活动。

国际二战博物馆协会自 2015 年 9 月 7 日成立以来，得到了中国文化部、民政部、外交部、国家文物局等各级政府部门的大力支持。我们借助国际博物馆协会、联合国教科文组织等国际组织的大舞台，提升了国际影响力，树立了国际形象。今后，我们将不断加强秘书处管理与建设，进一步增强秘书处组织的枢纽作用，以便更好地满足协会发展的需要。同时，协会将以建设学术平台、信息平台、活动平台、数据平台、交流平台“五个平台”为重点工作目标，不断壮大协会力量，优化会员队伍，组织特色活动，加强交流合作，提升协会秘书处服务会员的能力；中国人民抗日战争纪念馆作为协会秘书处所在地，将全力支持协会工作，与各会员单位互换展览、开展人员互访和学术研究，进一步增进交流与合作。让我们共同携手，牢记二战历史，汲取历史教训，珍惜来之不易的和平，坚决反对侵略战争，为增进世界人民友好，维护世界和平与发展做出应有的贡献！

日本一般财团法人人间自然科学研究所理事长代表矶江公博发言

京向世界发表。

第一，建议在冲绳建立“国际和平中心”设施，让冲绳岛变为“世界永久和平发源地”。给人们提供发挥才能，开拓人类未来的的机会。

1879 年，明治政府的琉球处置政策使得持续 500 年历史的琉球王国毁灭，被日本合并，成为日本的冲绳县。这是日本殖民地政策的开始，此后，陆续扩大其领土至台湾，朝鲜半岛，满洲，北方四岛等。

冲绳，过去是如当地自古以来的“相遇即为兄弟”的说法那样，是一个“和平之岛”。但是，在太平洋战争末期的冲绳战役中约有 20 万人遇难，成为“受害之岛”。二战末期的日本本土的轰炸，其后的朝鲜半岛，越南，伊拉克等战争中，作为美军前哨基地发挥作用，也具有“加害之岛”的一面。从研究冲绳的人类历史，以及地缘政治学的意义中，使以下的设想得以诞生。

① 接受世界各地的现代战争的所有战死者的电子数据，建设可永久记录和阅读的“纪念中心”。

② 用信息通信技术（ICT · IOT）建立世界战争与和平博物馆的世界网络。创建一个可以随时看到世界各设施的文档和照片，视频图像，可得到全面学习，可为世界的“战争与和平博物馆” 做向导，并创造新智慧的“战争与和平博物馆映像中心”

这是三年后在那霸机场相邻的预计返还地带建设的设想。

在长远的人类生命的繁衍中，北极海的冰被融化，让开拓北极航海航线可能得以实现。最近，习近平总书记提倡“一带一路”设想。从冲绳岛及其沿海水域，和竹岛（独岛）和日本海的象征对立区域，让“一带一路”设想进一步进化，成为联结亚洲、欧洲、美国的“世界结缘和平的特别圣地”。可以看到这个可能性。

朝鲜半岛和日本列岛，处于国土广阔的，从地理位置上可以宣布不进行先发制人的核攻击的美国，俄罗斯和中国，这三个主要核大国势力对抗的结点。大韩民国，朝鲜民主人民共和国和日本，在人权 · 历史 · 领土问题上一直纠缠于复杂的对立状态。我们确信正是这种对立，才是废除核武器，世界持久和平的入口。

第二，获得三核大国和世界其他国家的同意，让朝鲜民主人民共和国废弃核武器，并让世界所有拥有核武器的国家放弃核武器。同时，将被丢弃的核武器全部转由三核大国统一管理，实现朝鲜半岛和日本列岛无核化。三核大国，逐步裁减核武器，履行大国的人类历史责任。这是我们的第二个提议。

这一方案法的制定会促进诞生三核大国的大国国家核心。

第三项建议是建立“国民联合国”。

2008 年，在北京由学苑出版主持召开的中日韩英四国语“中国古典名言录”出版纪念座谈会上，我们公布了“国民联合国”的草案。

当前的“联合国”是由“权力”政府构成的，因二战的教训而诞生的，以常任理事国五国为中心运营的。新设想的“国民联合国”，是发挥人的特性和历史背景，通过逻辑的讨论，在长久时间的轴心上创建实现道理的路径，由“国民代表”构成，“权威”诞生的集体。其发祥地置于冲绳。

在混乱的世界中引导辉煌未来的“国民联合国”的建立是当前迫切的课题。

鉴于以上三个建议，我们期待：在国际二战博物馆馆长会议上承蒙大家知晓，使我们的设想建议在世界上得以传播，推进讨论，在联合国能够得到承认的流程得以实现。